

日本橋地区都市再生事業における官民協働によるパートナーシップ事業

川本 卓史 プロジェクト推進部研究員

1 はじめに

日本橋地区は、東京駅から近く、地下鉄の駅なども集中し、交通利便性の高い場所である。また、日本銀行を中心とした金融機関や江戸時代から創業する老舗店舗、国の重要文化財として指定されている日本橋をはじめとする歴史的建造物などが集中する地区である。しかし、景気の低迷が続く近年では、かつての賑わいを失いつつある。

こうした背景をふまえ、日本橋地区を歴史・文化を活かしたうまいと賑わいのある街への再生を目指し、官民が協働して新しく賑わい空間を創出するため、「日本橋地区都市再生事業」を平成4年度より実施している。

本稿では、当機構が強力に支援を続けてきた日本橋地区都市再生事業において、事業成果が得られつつある主な3つのプロジェクト、①官民一体整備による地下通路拡幅事業、②中央通りはな街道、③日本橋学生工房についての現状と今後の展望を紹介する。

2 日本橋室町地区と地下通路拡幅事業の概要

2-1. 日本橋室町地区の概要

日本橋周辺地区は、江戸時代より政治・経済・文化の中心地として発展してきた地区であるが、現在、以下に示すような課題を抱えている。

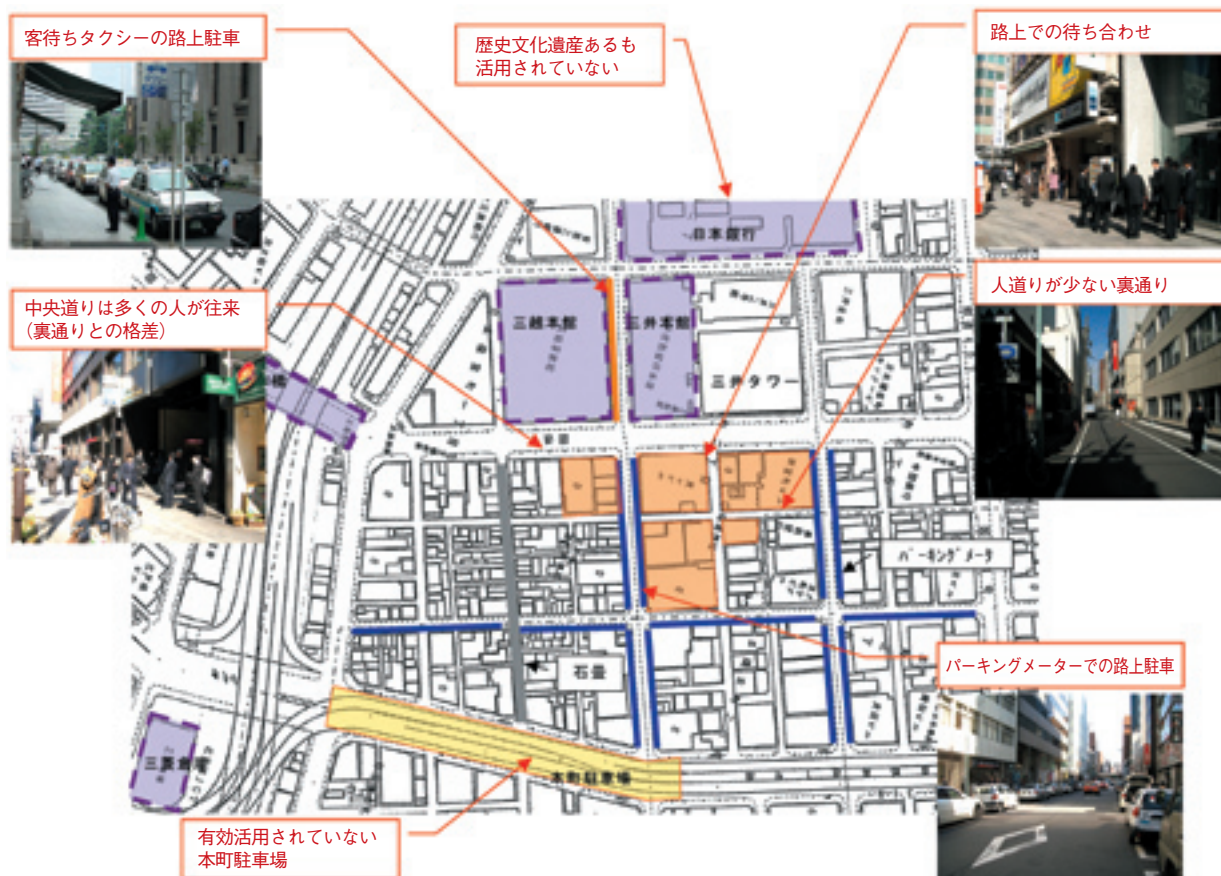
- ① 中央通りと路地の連続性が悪く、路地の人通りは少ない。
- ② 中央通り、室一仲通り以外は店舗等も少ない。
- ③ 歴史文化資源が有効活用されず、案内情報機能が不足しており、国際観光地としての魅力が低い。
- ④ たまり空間、待ち合わせスペースが不足しており、地下鉄出入口部の歩道で待ち合わせをしている。
- ⑤ 中央区で最も緑被率が低く（3.4%）、地域内ではほとんど緑が感じられない。
- ⑥ パーキングメータによる路上駐車および客待ちタクシー。

2-2. 地下通路拡幅事業の概要

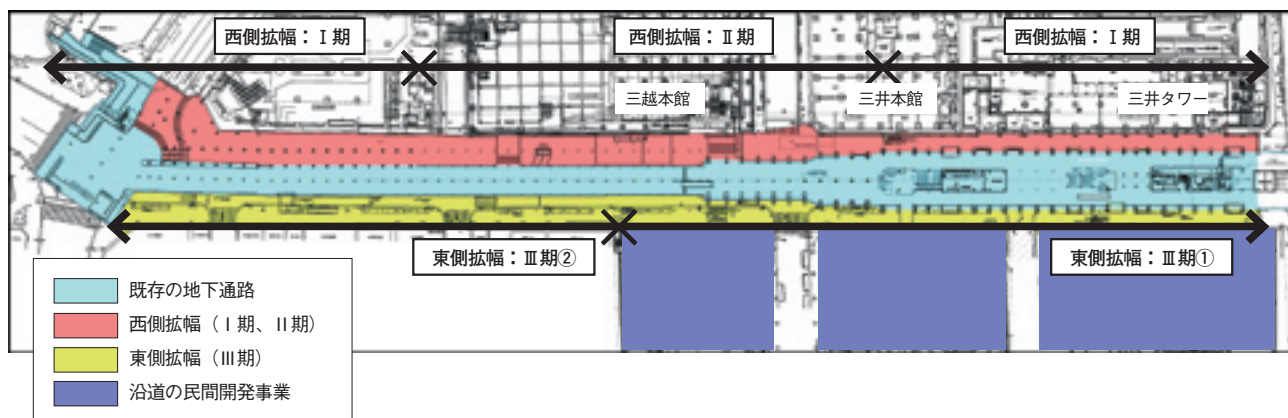
日本橋地区都市再生事業の目玉の一つである「官民一体整備による地下通路拡幅事業」は、一般国道4号下の半蔵門線三越前駅と銀座線三越前駅を結ぶ地下通路の拡幅について、歩行空間のサービス水準の向上だけでなく、たまり空間の創出、情報提供の充実などを目指し、沿道の民間開発事業（建築物）との一体整備により進める事業である。既に西側拡幅（Ⅰ期、Ⅱ期）は、三越本館前、三井タワー前の一部拡幅が完成し、平成20年には西側全体の拡幅が完了する予定である。

現在は、銀座線三越前駅の民間開発事業が予定されている前面の東側地下通路の拡幅（Ⅲ期①、L=約190m）について、沿道の民間開発事業と地下通路の拡幅事業の一体整備により、官民ともにメリットを享受できるような事業に取り組んでいる。

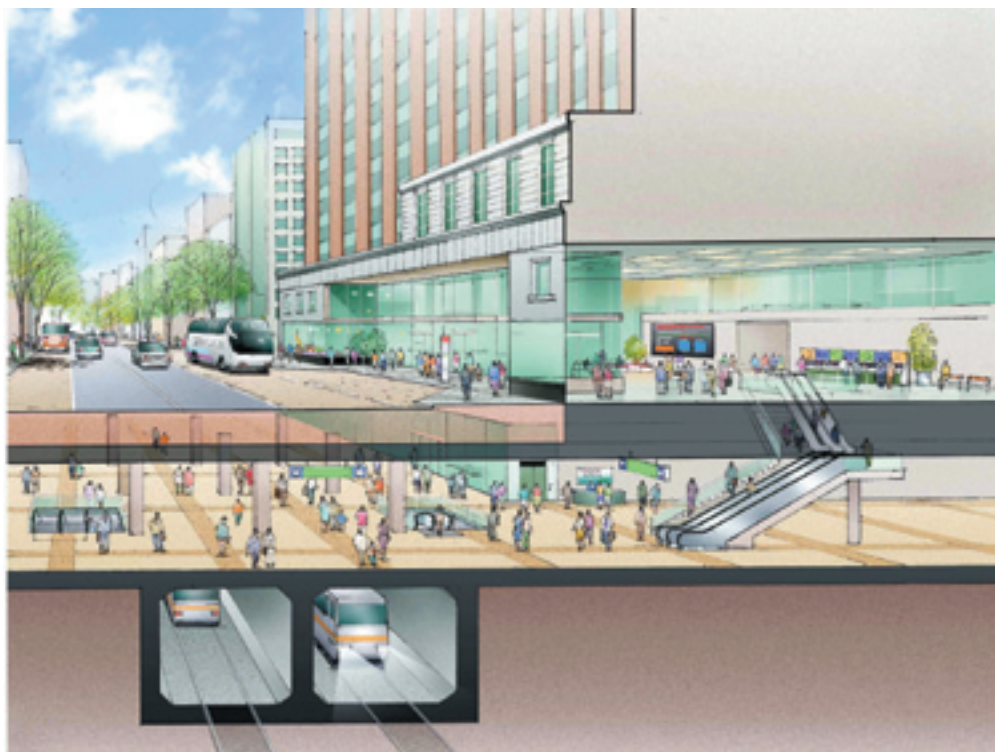
日本橋室町地区の現状と課題



地下通路の拡幅箇所



地下通路と建築物の一体整備イメージ



3 東側地下通路拡幅事業の方向性

3-1. 東側地下空間整備の考え方

I期、II期事業により、西側の拡幅が実現し、幅員の拡大、高い天井の確保および半蔵門線の広場スペースの確保が実現した。西側については、快適な歩行空間の形成および沿道建物（三越、三井）との親和性の確保およびバリアフリーの実現に主眼をおいた。

III期事業にあたっては、「①中央通りと路地の連続性の向上」、「②国際観光地としての魅力の向上」、「③たまり空間、待ち合わせスペースの確保」、「④緑地・憩いのスペースの整備」、「⑤路上駐車および客待ちタクシーの解消」などが求められている。また、沿道の民間開発事業により、大幅な来訪者の増加が予想され、歩行者へのサービスが低下する恐れがある。

したがって、東側整備については、地下通路の拡幅と建築物の一体整備により、地域課題に対応し、特に、

中央通り東側の「まちづくり」および「地域活性化」に寄与するための機能や施設を有する整備を目指している。

3-2. 東側地下通路拡幅事業を活かしたまちづくりの考え方

東側の地下空間拡幅にあたっては、沿道で進められている民間開発事業との連携を考慮する。具体的には、拡幅する地下空間と沿道建物および区道下の空間を活用して、地下におけるゆとりある大空間の整備を目指すとともに、地域の情報、文化の拠点となりうる機能を当該空間に確保する。

また、地上への人の流れ、回遊を促進するために、中央通りだけでなく、裏通り、老舗エリアなどへの出入口および地下通路を沿道建物側で整備する。

3-3. 東側地下通路拡幅事業の方向性

日本橋地区に求められる必要機能について、東側地下通路拡幅事業と沿道民間開発事業の官民一体整備の方向性を以下に示す。

(1) たまり・休憩機能

通路と民地の連続性ある広い開放感のあるスペースに、ベンチ、緑、インフォメーションセンター、たまり空間と連携が可能な店舗の設置（オープンカフェ・本屋等）をはじめ、自然光の取り込み（吹き抜け空間等）など、空間の魅力を向上させる。

(2) 観光・文化情報提供機能

たまり空間を情報拠点として日本橋室町周辺だけでなく東京各地の情報提供を行う。地元主導で地区周辺施設、さらに東京各地の観光案内を行う情報機器を導入するなど地域活性化を図る。また、出先機関の誘致などで周辺文化施設へのゲートウェイを目指す。

(3) 回遊性創出機能

たまり空間を介して裏路地への貫通通路を整備し、情報発信機能、バリアフリー機能と合わせて地域の回遊性向上を図る。

(4) バリアフリー機能

民地側にエスカレータ・エレベータ等を設置して、地上へのアクセス性向上をはかりバリアフリー機能を確保し、さらには利用者の民間施設利用促進を図る。

(5) 荷さばき機能

地下空間に荷さばき車両の駐車スペースを確保し、老舗ゾーンだけでなく地域の共同荷さばきスペースとして位置づけ、周辺の渋滞解消及び歩行者空間の安全性、快適性の向上を図る。

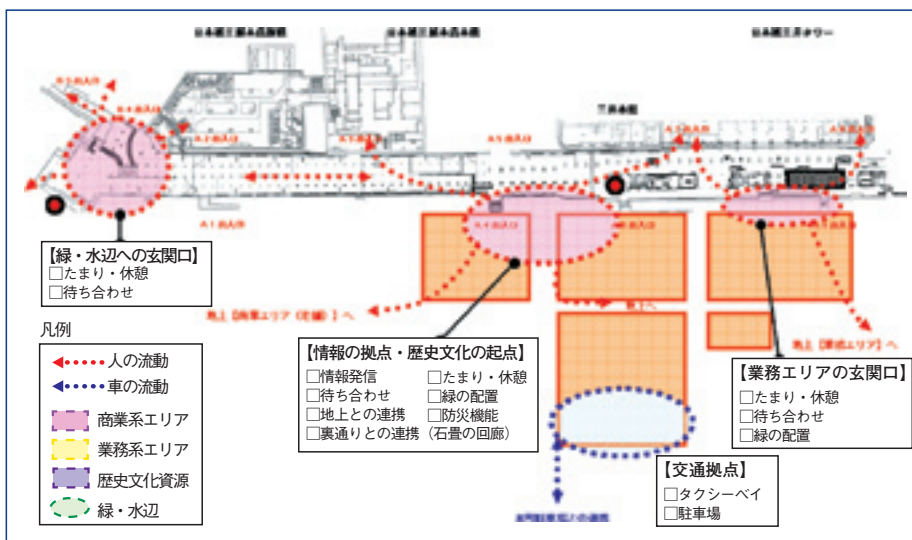
(6) 防災機能

たまり空間を災害時の帰宅困難者の収容等のスペースとし、非常時の備蓄や情報提供機能を利用した被災者の

地上の流動と拠点機能イメージ



地下の流動と拠点機能イメージ



安否確認サービス等の支援を実施する。

(7) ターミナル機能

東京駅や人形町方面と連絡するメトロリンクの発着点とし、他の拠点と連結させるとともに、中央通りへの駐停車を避けタクシーベイ等を設置する。

4 地元のまちづくり活動

日本橋地区のまちづくりの気運を高めるため、地域住民だけでなく、地元企業や学生等が日本橋地域のまちづ



地域の方々による花植えの様子

日本橋学生工房 5 期の活動計画を
地域の方に発表している様子



くりに積極的に参加するよう、当機構が仕掛けた地元のまちづくり活動について、以下に「中央通りはな街道」、「日本橋学生工房」について紹介する。

4-1. 中央通り『はな街道』

官民パートナーシップによる「中央通り『はな街道』」は、平成 14 年に 1 年間の社会実験としてスタートし、日本橋・京橋地区において、沿道住民等の参加による沿道環境美化の理解と維持管理の軽減を目的に行っているもので、フラワー寄金を提供する「フラワーサポーター（花奉行）」、花壇への水撒きなどを行う「フラワーボランティア（水奉行）」により沿道の花壇の維持管理と美化活動を行っている。

この活動は 1 年間の社会実験としてスタートしたが、「まちがきれいになった」と地元から好評で、今後の継続を望む声が多数寄せられた。そこで地域では活動継続を目指し、「はな街道」実行委員会を組織化し、平成 18 年 4 月には「NPO 法人 はな街道」としてさらに組織を強化し、活動を続けている。

4-2. 日本橋学生工房

日本橋学生工房は、平成 14 年からスタートし、東京

近郊の大学生が参画し、地域住民等との交流を通じ、学生の視点で日本橋周辺地区のまちづくりについて、様々な提案を行うことを目的として活動している。

5 終わりに

本稿では、日本橋地区における都市再生事業として、官民パートナーシップにより事業化が進められているプロジェクトを紹介した。現在、日本橋地区では、日本橋上空の首都高速道路の移設が注目を集め、この件についても当機構が強力に支援しており、今年の 9 月 15 日に「日本橋地域から始まる新たな街づくりに向けて」の提言書を小泉前総理に提出したばかりである。

この提言では、従来の経済効率優先のまちづくりから転換し、地域の歴史・文化を継承した潤いと活気ある都市空間の創出、品格ある上級なまちづくりが必要であると訴えている。

日本橋地区における都市再生の取組みが全国に波及し、品格ある上級なまちづくりが日本各地で行われることを期待したい。

(かわもと・たかし)